

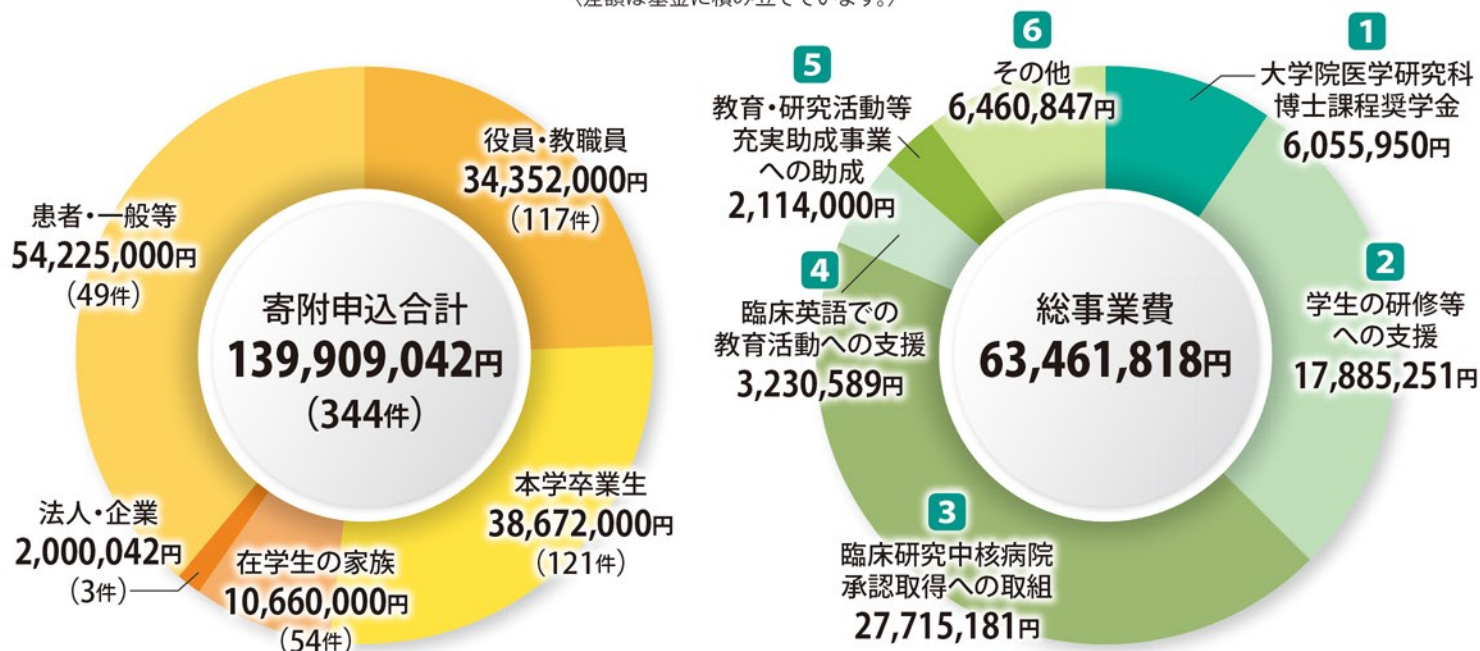
奈良県立医科大学 「未来への飛躍」基金

平素より未来への飛躍基金へのご理解とご支援をいただき心から御礼申し上げます。
皆様からいただいたご寄附は、教育、研究及び診療活動への支援、大学及び附属病院の施設整備、
大学と社会とのつながりへの支援等、幅広く活用させていただいております。

2022年度 寄附申込額と使途実績のご報告

寄附件数 **344件** 寄附申込合計 **139,909,042円**

〈差額は基金に積み立てています。〉



事業の概要

1 大学院医学研究科博士課程奨学金

入学金相当額及び授業料相当額を貸与。

2 学生の研修等への支援

- ・国内外の研修への支援
- ・学生の支援を行う講座への活動費
- ・医師・看護師・保健師の国家試験模試費用の支援
- ・クラブ活動への支援
- ・看護学生への実習着の授与 等

3 臨床研究中核病院承認取得への取組

本学では申請に向けて承認要件とされる体制整備を進めており、必要とされる医師主導治験と特定臨床研究の新規実施件数の確保を目指して推進を図っています。

4 臨床英語での教育活動支援

医学・看護学の準備教育としての臨床英語の強化を図るための講座活動費を助成。

5 教育・研究活動等充実助成事業

各所属で実施している教育・研究活動事業への助成。

6 その他

- ・健康長寿イベント助成
- ・英文校正費助成
- ・事務費 等



奈良県立医科大学
Nara Medical University



2022年度 活動事業のご報告 「未来への飛躍」基金の使途から一部ご紹介します。

01 PROJECT リサーチ・クラークシップ

医学科2年生を対象に、学生自ら直接専門領域の研究内容に触れ、さらには高度な実験科学の進め方を実際に体得するための授業です。研究活動の意義及びそれを支える研究者の心を理解してresearch mindを培うことを目的とします。国内及び海外の研究室での11週間の実習で、宿泊費の一部を本基金から助成しました。

岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科腫瘍微小環境学研究室へ研究実習留学をしました

(当時)医学科2年生 大原 優奈

学外での実習の機会を与えていただき感謝しています。学内の指導教員の呼吸器内科・室教授にも実習に行く前から面談を通して心構えや雰囲気などを教えていただきました。研究室は自分で探して行くのは難しいですが、室先生他、教育支援課の方々などさまざまな方の協力があり、学外で興味のある研究室に行かせていただけました。貴重な経験ができ、いろいろな人と知り合えたことがとてもありがたかったです。

学外での研究実習は、たくさんの人と交流できて、いろんな人から意見を伺うことができるので、新たなものの見方に触れることができ、学ぶことに対する意識も変わりました。2年生という早い時期に研究に触れることができたこの経験を支援していただき「未来への飛躍」基金にはとても感謝しています。今回学んだ経験を今後の勉強に生かしていきたいと思っています。



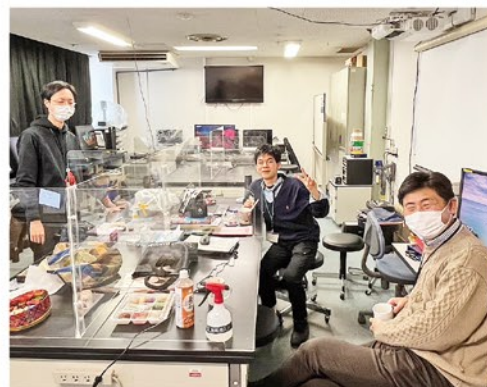
国立精神・神経医療センター疫病研究第一部へ研究実習留学をしました

(当時)医学科2年生 早崎 礼

リサーチ・クラークシップという普段の学びの方向性とは全く異なる学びの場を提供してくださり本当にありがとうございます。医学を学ぶことは目的ではなく手段でありそれらを自らの手足のように用いて行動することが世界レベルでは前提条件として求められるのだということを強く認識しました。また研究者として事実と真摯に向き合いどう論理的に解釈し人に伝わるようにしていくことの難しさを初めて理解しました。3年生になってからの学習でもこのリサーチ・クラークシップで得た教訓を胸に掲げ取り組んでいきたいです。

自分の家庭は裕福ではないので「未来への飛躍」基金の援助がなければ、学外リサーチ・クラークシップという手段を選ぶことができませんでした。自分にまたとない学習の機会を与えてくださったことに本当に感謝いたします。将来、当基金に自分が還元すると共に援助を受けた身として相応しい人間になります。

中央が早崎さん▼



九州大学病院別府病院外科へ研究実習留学をしました

(当時)医学科2年生 宮下 実羽

この度は、九州大学病院別府病院に派遣をしてくださり、ありがとうございました。2か月間、勉学に集中出来たことは、決して当たり前のことではなく、ご支援をいただいているからだ、日を重ねるごとに強く感じていました。

リサーチ・クラークシップの目的は「リサーチ・マインドを培うこと」ですが、少しは研究とはどういうものかということを知ることが出来たのではないかと考えています。研究はもちろんのこと、たくさんの講演会にも参加させていただき、普段では聞くことのできない貴重なお話を耳にすることが出来て、大変有意義な時間を過ごせました。この2か月間の経験を無駄にすることなく、これからも勉学に励みたいと考えています。この度は、リサーチ・クラークシップの国内派遣において、ご支援をいただき本当にありがとうございました。

右から2人目が宮下さん▼



02 PROJECT

大学院医学研究科博士課程入学者に対する奨学金

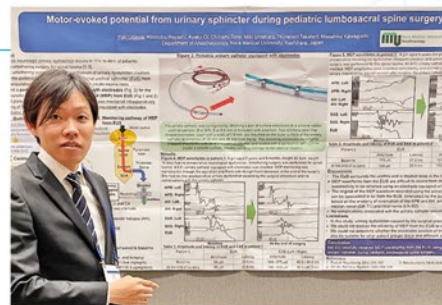
優秀な大学院博士課程修了者及び学位取得者を広く社会に、より多く輩出することを目的とした奨学金制度です。入学料及び授業料相当額を本基金から貸与しました。

ビッグデータを用いた臨床研究に取り組む

公衆衛生学 小川 裕貴

本奨学金のご支援のおかげで、2022年度で公衆衛生学の博士課程を修了し学位を取得いたしました。麻酔科医、集中治療医として大学病院で勤務している私ですが、公衆衛生学講座では主に診療報酬情報を集積した大規模データベースを用いた臨床研究に取り組んでおりました。本学の公衆衛生学講座は、いわゆるビッグデータ研究の分野で先進的な施設ですが、さらに今村教授の人脈により東京大学や摂南大学などとの複数の共同研究に携わる機会を得て、専門的なデータ解析の技術を学ぶことができました。

将来的に夢である海外での研究活動も視野に入れているなかで、経済的な不安を拭いきれずにおりましたが、本奨学金制度のおかげで研究活動に集中することができました。本奨学金の多大なるご支援に、心より感謝申し上げます。今後も社会に貢献する研究に携わるべく、より一層精進してまいります。

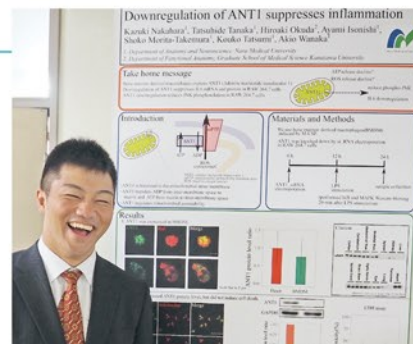


パーキンソン病の病態理解を目指して

機能形態学 中原 一貴

私は本奨学金のご支援のもと、機能形態学講座、和中教授の元で博士課程の指導をしていただいております。私は研究医を志しており、キャリアの早い段階で大学院に入学したいと考えておりました。本奨学金のおかげで大学院に通う上での経済的な不安は軽減され、安心して大学院に進学することができました。私は研究者としてのキャリアを考慮して初期臨床研修を中断するという大きな決断をいたしました。本奨学金のような支援がなければこのような決断はできなかったと考えております。

機能形態学講座では頻度の高い神経変性疾患であるパーキンソン病の病態理解を目指して、モデルマウスを用いて脳内における遺伝子発現の解析を行っております。本奨学金のご支援に感謝するとともに、人類の知に貢献できるような世界的な研究者として活躍できるように今後も努力して参ります。



03 PROJECT

社会とのつながりへの支援

奈良県立医科大学の教員と学生がショッピングモールで開催した、地域の方々に奈良医大を身近に感じてもらうための健康イベントへの助成を行っています。

近年、関心の高まる感染予防や健康情報の発信、AEDの使用方法の実演などに加え、子どもも楽しめるよう診察・看護体験や救急車見学を実施し、医療に興味を持つきっかけづくりができるようなイベントとなっています。



04 PROJECT

クラブ活動への助成

クラブ活動は学生生活を有意義にするだけでなく、豊かな人間性や社会性を培うことにおおいに役立ちます。基金ではこれまで学生のクラブ活動を応援してきました。

テニスコートの芝生修復や弓道場の場盛土の修復といった大規模なことから、バッティングマシンや物置の購入、ひいては「西日本医科学生総合体育大会(西医体)」への参加費の助成も行ってきました。



新キャンパスの整備に向けて

本学は、教育・研究部門の新キャンパスへの全面移転と、現キャンパスでの附属病院施設の抜本的充実を図るという新しい奈良県立医科大学を作り上げる絶好の機会を迎え、数十年先の大学と附属病院のあるべき姿を検討するため、2014年1月に「医大の将来像策定会議」を立ち上げました。その後十分な検討を重ねたのち、2017年4月に「奈良県立医科大学の将来像」及び「奈良県立医科大学キャンパス整備イメージ」を策定、公表しました。2019年3月には基本計画を取りまとめ、2021年度より造成工事を実施し、2022年度より建築工事に着手しています。

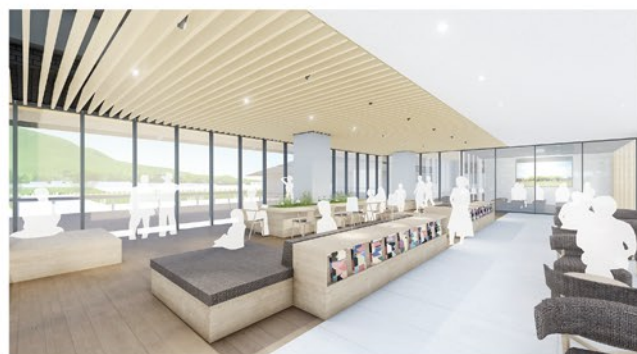


医大新キャンパスの移転整備

【整備コンセプト】

- 奈良への愛着を醸成し、奈良県立医科大学ならではの医学教育を実践する場にふさわしい姿を具現化
- 現在老朽化が著しい教養教育部門及び看護学科の施設を先行して整備（2024年度に先行整備分竣工予定）

- 歴史的な景観や、畝傍山への眺望など周辺の自然環境に配慮しながら、日本最初の都城である藤原京をモチーフとした、古都奈良に相応しい景観を形成するようなデザイン



紺綬褒章について

本学は、内閣府賞勲局から紺綬褒章「公益団体」として認定を受けています。基金に500万円以上のご寄附をいただいた方（個人）及び1,000万円以上のご寄附をいただいた団体は紺綬褒章授与の対象となります（分納可能）。授与申請については本学の取扱基準に基づいて申請を行いますので、詳しくは総務広報課までお問い合わせください。



奈良県立医科大学 総務広報課

〒634-8521 奈良県橿原市四条町840番地
E-mail: hiyakukikin@narmed-u.ac.jp
TEL: 0744-23-9973 FAX: 0744-29-8987

「未来への飛躍」基金 WEBサイト
<https://hiyakukikin.narmed-u.ac.jp>

